

【巻頭言】

これからの学友会について

副会長 黒田大悟(短3回生)

2023年度の役員改選によって学友会副会長に就任しました短期大学3回生の黒田大悟です。本部理事には優秀な先輩方が居られ、私が副会長になるとは夢にも思っていませんでしたが、周りの方のお力添えをいただきながら、学友会活動を進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

新型コロナウイルス感染症の影響で、この3年余りはいろいろな活動が制限される状況となりましたが、本年5月より感染症法上の分類が5類に移行したことによって、コロナ禍前の生活に戻りつつあります。学友会の活動においても同様で、本部総会や各支部総会、理事会などは、リモート開催を余儀なくされた時期もあり非常にもどかしい期間が続きましたが、5月27日には本部総会を広島支部のご協力によって、対面形式で開催することができました。また、支部総会が開催されたとの嬉しい連絡も届いています。



さて、学友会活動の柱である会員相互の親睦を、これから徐々に再開されることを願うばかりですが、4年近い空白を埋め合わせるのは容易ではないかもしれません。これまでの学友会は、専門学校卒業生が中心となって運営していただき、短期大学や大学の卒業生の参加が多いとは言えない状況でした。それが、このプランクによってさらに加速するのではないかと懸念しています。短期大学・大学を併せた卒業生の数は、専門学校の卒業生の数に近づいており、現状の会員数では既に上回っている状態です。若い会員の中には、「学友会は年配者たちの集まり」というように考える方も居られたとしても、決してそんなことはありません。卒後早い時期に参加するからこそ得られるものも大いにあると思います。コロナ禍で人と人との繋がりが遮断された経験があるからこそ、今後はその繋がりをより大切にしていきたいと考えています。

4年後には、本学開学100周年が迫っており、その記念すべき節目を迎えるにあたって、学友会をさらに盛り上げていく必要があります。短期大学初期の卒業生は現在50歳前後となり、職場では管理業務を任せられ、家庭では子育ても一段落という方が多くなってきているのではないのでしょうか。そんななかで、少し余裕の出た時間の一部を学友会のために使ってみてはいかがでしょうか。また、今回の役員改選では、錦成郎会長や西谷源展先生の意向もあり、大学の卒業生にも本部理事に参画していただき、若い会員にとっても参加しやすい魅力的な運営を目指しているところです。若輩者の私が副会長に指名された意味も、その橋渡しの役割にあるのではないかと考えている次第です。

これからの学友会は、短期大学・大学の卒業生が担っていく必要があり、今がその過渡期となっています。日本最古の診療放射線技師養成校である本学の伝統を継承し、ますます発展していくためにも、これまでの活動を支えてくださった会員だけでなく、若い世代の会員の参加をどうぞよろしくお願ひいたします。

以上